

## 在宅医療

コロナ感染がまだまだ猛威をふるい、専用ホテルで療養する患者さんや在宅で療養する患者さんが増加しています。そんな中で起こった医師殺害事件は、私を含め在宅医療を続ける医療関係者にとって大きな衝撃でした。

女性の看護師さんにとって、在宅医療は危険な業務の一つには違いなく、セクハラパワハラをいかに回避しなければならないかは日常の問題と言えます。しかし、医師が身の危険を感じるなどということは聞いたこともなく、あつてはならないことで、そのような患者の所にはそもそも訪問しないのが普通です。それを敢えて引き受けた医師の気持ちを思えば思うほど、そして志半ばで倒れた医師の無念を思えば思うほどやりきれない気持ちで一杯です。

私自身開業医になってからずっと往診を続けています。在宅医療は普通の外来診療に比べて体力的にも精神的にもはるかに大変な業務です。それを続けるのは、往診先の患者さんや家族の方から、心からの感謝の声をかけてもらえるからと言っても過言ではありません。外来診療では経験しえない家族からの心からの声が、往診をやっている良かったどころか医者になって良かったときえ思えるほどの瞬間を与えてきてくれました。一昔前なら一人で全てやっていたものを、今では訪問看護師、ケアマネを含めてチームで行うことで在宅医療も、医師側とすれば大分楽になりました。またチームで対処することで患者の要望に細かく対応することができるようになっていきます。

危機回避に最善を尽くし、在宅医療を志す医療関係者が安心して医療を行えるような体制を構築し、今後も在宅医療を切望する患者さんに寄り添っていかなければならないと考えています。